



俳優  
ときたふじを  
**常田富士男**さん  
(本名)

■プロフィール  
1937年 長野県下高井郡生まれ。  
1955年 熊本県立洛ヶ崎高校卒業。  
1957年 上京、劇団民芸養成所に入る。  
1960年 劇団青芸結成。(65年解散)  
1966年 演劇企画集団06を結成。以来別役  
実の作品を主に舞台活動を続け  
現在に至る。

\*アニメ作品「銀河鉄道の夜」「天空の城  
ラピュタ」「源氏物語」で「日本アニメフェ  
スティバル」声優部門、特別演技賞を受賞。  
テレビ「まんが日本昔ばなし」は17年目  
を迎え、好評放映中。また、京都フィル  
ハーモニー室内合奏団、群馬交響楽団  
などと音楽物語を公演中。

常田富士男さんは映画、TV、ラジオなどで活躍している南  
小国町出身の俳優です。常田さんは故郷を離れて三十八年。  
なのに、東京では小国杉で建てた土間のある家に住み、煮炊き  
はカマド、七輪。熊本から取り寄せた飯取籠のしらかさやご、鉈たなどを  
使った暮らしをしています。それはまるで「日本昔ばなし」の  
世界です。今回は「常田さん流暮らしの楽しみ方」を聞きます。



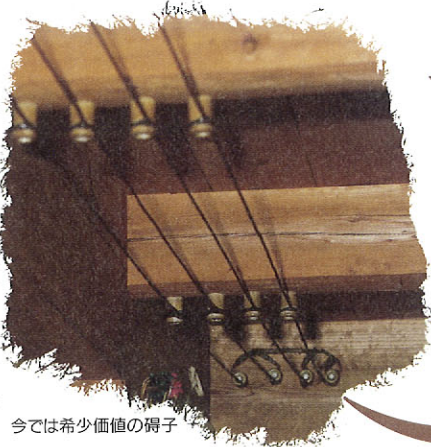
「このゆがみはね、材木の性質を生かして作ってあるからなんだ」

火をカマドで起こして、飯を炊く。  
短い人生だもの。すこし手えかけて、  
楽しんだらどうかい。

### 熊本の匂いがする小国杉の家

この家建てたのは七年前。小国杉を切り出して運んでもらい、小国の大工さんに建ててもらいました。雰囲気は、大正から昭和初期かな。熊本出身の人が来ると、「あつ、熊本の匂いだ」と言いますね。

「熊本も珍しいでしょう。随分探してもらったんです。配線を壁に埋め込まないで、見えるようにしてあると、安心感があるんです。蓋をかぶせると、その存在を忘れてしまふでしょ。下水の蓋も取り外しがきくようにしています。ゴミが詰まったら自分で掃除する。面倒だけど、開けたり閉めたりするよくな暮らしをしてないと不安なんです。互いを生かす関係が見えてくる。僕は南小国で育ったわけだけど、近所には籠や桶作りの職人がいたし、農具などは自分で作っていました。手作



今では希少な価値の碓子

りの暮らしというのが身についているんですね。ここにあるおひつなんかも手作りのもの。どこで、どんな人が、どんな風に作ったのか、人の作業している姿が目に見え、作業が見え、モノに対する気持ちのかけ具合が違ってきます。人恋しさですかね。熊本の工芸館でも作業の実演を皆熱心に見てますよね。やっぱり、人が作業している姿って引きつけるんですよ。

昔は道具の一つ一つが連結していました。ご飯をカマドで炊くから、おひつに移さなければならぬ。夏は飯取籠に入れて保存する、と言った具合にモノを互いに生かす関係があるわけです。全体の中でそれぞれの存在を見ることはとても大切です。昔の暮らし方を知ろう」と、近くの小学校から見学に来るけど、実際に使っているから、生きた教材になるんです。

### 不便さを楽しみたい

我が家では餅つきも杵でついでますよ。友人たちが六十人ほど集まって、もち米を蒸して、杵でついて丸めて……。一日中、ワイワイ楽しんでいきます。餅を焼く時は七輪に火を起こすんです。楽しいですよ。買った餅をオーブントースターで焼いたらこんなに楽しめないのでしょ。手作りのモノを、手間掛けて使う。そこにはたくさんの「人」が関わってくる。それがいいんです。何も文明の進歩を否定するわけじゃない。蛇口をひねればお湯が出てくる有り難みを知っているのは、むしろ僕らの世代でしょうね。だから、「便利さ」と「不便さ」と、両方楽しめたらいいと思いますね。

### 暮らし方の違いを楽しむ

外輪山を越えて熊本市内へ行き、何時間も汽車に乗って本州に行く。若い時は都や異国の文化に憧れてましたね。今は、年取ったせいですが、自分の生まれ育った根っこにある暮らしとしっかり付き合いたい気がしています。

最近では外国との交流が増えたけど、自分の育った生活の有様を知っている方が、豊かな付き合いができるのではないのでしょうか。外国人と出会った時は僕はその人の暮らし方を知りたいと思ふし、向こうだってそうでしょう。「あなた方と同じです」なんて言ったら話は途切れてしまう。国際化するのは、暮らし方の違いを楽しむということではないのでしょうか。



「外から帰って来て、そのまま土間で立ち食いの好きなんだ」



桶籠。中に食器も片付くし、お膳にもなるスグレモノ



夏は飯取籠にご飯を入れて軒下など涼しい所に吊して保存する

庭には焚物(たきもの)が積まれている。東京の新興住宅地の中に「田舎」を見つけた

